

1 研究主題

中学校1年生の英語授業におけるフォニックス指導の効果
～多感覚を用いて学ぶジョリーフォニックスの活用を通して～

観音寺市立中部中学校 教諭 田岡 愛加

2 研究の具体と今後の課題

日本語母語者の英語の習得困難にかかわる要因として、音素単位の音韻認識や英語の書記素－音素の不規則な対応関係が指摘されている。本研究では、中学校1年生の英語授業の導入に、音素単位で文字と音の対応規則を学ぶフォニックスの指導を行い、指導の効果と課題について検討することを目的とした。フォニックスの指導は、多感覚を用いて文字－音の対応を学ぶジョリーフォニックスの手法を採用し、英語の基本的な対応規則を習得することを目指した。指導は、英語授業の冒頭5分を使い、1学期から2学期にかけて計34回の指導を行った。指導終了後、フォニックスを指導したクラス（指導群）と指導していないクラス（対照群）に対して英単語読みテストを実施した。その結果、指導群の正答率は対照群よりも有意に高く、フォニックスの指導の効果が確認された。また、事後アンケートでは、8割以上の生徒が英単語を覚えるのにフォニックスが役立つと回答しており、「覚えやすい」、「便利」、「楽しい」など肯定的な評価が多く見られた。一方で、フォニックスを「難しい」、「覚えにくい」と評価した生徒も1割程度存在した。今後は、中学校1年生へのフォニックス指導の導入と効果的な活用について継続的に検討するとともに、音韻認識や視覚認知の弱さなど、個の特性にも配慮した指導を工夫していきたい。

1 研究主題

知的障害特別支援学校小学部における家庭学習支援
－動画教材の開発とチャレンジ日記の活用－

香川県立香川中部養護学校 教諭 滝澤 健

2 研究の具体と今後の課題

知的障害特別支援学校小学部1年生9名の児童とその保護者を対象に、個別の指導計画を基に、家庭学習のための動画教材を開発して提供し、家庭学習の継続をチャレンジ日記により支援した。

動画教材は、家庭生活に即した「身辺処理」や「手伝い」「運動」等の内容であり、QRコードで保護者に提供した。担任教師は、児童の興味関心、課題等の実態や保護者のニーズを考慮して、家庭学習の目標設定に関する助言を行った。筆者は担任教師と協議し、必要に応じて動画教材の修正や追加等を行い、支援の個別化を図った。家庭学習の継続に当たっては、チャレンジ日記を活用した。児童が家庭学習を実行した後、チャレンジ日記にシールを貼って記録をし、保護者と担任教師がコメントを互いに書き合った。学校でも家庭学習と同様の目標に取り組み、チャレンジ日記を通じて児童を称賛する機会を設けた。

結果、1週間あたりの実施日数に違いはあるが、参加者の9割が18週間、家庭学習を継続できた。チャレンジ日記のコメントには、保護者の児童への称賛や、肯定的な関わりの記述が確認された。今後の課題として、動画教材作成のための職員研修や、家庭学習の成果を児童同士で互いに称賛し認め合うためのチャレンジ日記の活用等が挙げられた。